

(1)

第4回「東海地方の海里山の食文化研究」シンポジウム

和食の魅力 食と文化財

司会・印南敏秀 それでは、定刻となりましたので第4回東海地方の海里山の食文化研究会、世界無形文化遺産登録記念シンポジウム、和食の魅力、食と文化財をこれから開催させていただきます。まず少しだけ紹介させていただきますと、このシンポジウムがちょうど、この私どもの研究所の食文化研究会第4回目のシンポジウムということでございます。昨年、ちょうど世界遺産登録が決まったということで、今回先端の世界遺産の登録に因むような先生方をお招きして、そしてまたその世界遺産にとどまるような和食のシンポジウムということで進めたいというふうに思っております。それで最初にご挨拶ということで学長をお願いしていたのですが、ちょうど今山形に出張中ということで、ビデオレターが届いておりますので最初にまず学長のビデオレターをご覧いただきたいと思います。

佐藤元彦学長 皆さん、こんにちは。愛知大学で学長をしております佐藤と言います。本日はどうか宜しくお願い致します。さて、本日愛知大学の総合郷土研究所が主催をされます和食の魅力による食と文化財というテーマでシンポジウムを開催致しましたところ、このように多くの方々にお集まり頂きまして誠にありがたく、心から御礼を申し上げたいと思います。さて、今回のシンポジウムでございますけども、第4回の東海地方の海里山の食文化研究という取組の一環であるというふうに聞いております。過去に同じような経緯でシンポジウム開催した時にお見えの方もいらっしゃるかもしれませんが、今回もどうかよろしくお願い致します。なお、大変恐縮でございますが、私は本日山形のほうに出張中でございます。今回のプログラムには挨拶をするということで期待をさせていたかもしれませんが、その点、こういうかたちで、ビデオレターというかたちでご挨拶をさせていただきます。ぜひご了解を頂ければというふうに思います。本日は基調講演として静岡文化芸術大学の学長をお務めの熊倉先生にお出で頂いております。熊倉先生には日ごろ三遠南信地域の大学の関係で大変お世話になっております。非常にお忙しい中で本日お出で頂いたのではないかと思います。心から感謝を申しあげたいということであります。また、基調講演を頂く福島さん、長谷川さんにおかれましても、ご多用の中でこのようなかたちでご協力頂きましたこと厚く御礼を申し上げたいと思います。先ほどから申し上げておりますように、多くの方々に参加を頂きまして会場全体が非常にこのテーマについて積極的で熱い雰囲気が出ていくのではないかとこのように感じているところでございます。司会をされる印南先生をはじめとする関係者の皆様にもお礼を申し上げまして簡単ではありますが、本日の挨拶とさせていただきます。本日は宜しくお願い致します。

司会 はい。それでは早速基調講演ということで、和食の魅力と世界無形文化遺産と題して熊倉

先生にご講演をお願いしたいと思います。熊倉先生の履歴につきましては、このチラシの中にもございますけれども、また皆さん方の昔よくご存知の方だと思いますので、あまり詳しくは申し上げませんが、現在静岡文化芸術大学学長、そして今回の和食登録について、中心となって尽力された先生でございます。そういう点で言いますと、今日の話の中で私どもの知らない、和食の世界遺産登録についての話、おそらくは和食の魅力というものについていろいろお話頂いて、教わる人が多いことではないかというふうに思います。それでは熊倉先生宜しくお願い致します。